



さくら

題字 足立区長 近藤 やい

足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 市村 智
編集 広報委員会
発行日 2022年7月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5870



「私のかわいいハムスター」 保木間小 三年 孫 千愛 作

目次

各地区自主研修報告	2
老後を考える	3
委員会・部会報告	4
地域ボランティア活動	5
ぶらり足立	6
図書館PRコーナー	7
社会福祉協議会 新旧役員紹介	8

広報紙「さくら」には

ご挨拶

お世話になりました



福祉管理課長
近藤 博昭

広報紙「さくら」は、使われている罫線の色こそ変わりましたが、スタイルは以前と変わっていません。また、驚いたことにカラー化しています。皆さんの日々の活動内容に地域での話題、児童の絵画掲載など、改めて拝読してみますと非常に懐かしく感じます。

私は単なる「さくら」のファンではありません。実は、発足当時の「さくら」の制作に携わっておりました。

今回、人事異動により福祉管理課長として着任しましたが、再び関係するとは思ってもいなかったことから、この運命のいたずらに、ただただ驚いております。これも何かの縁だと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。



前福祉管理課長
千ヶ崎 嘉彦

1年間という短い期間でしたが、民生・児童委員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

民生・児童委員の皆様と仕事を一緒にさせていただき、皆様の「地域への思い」や「使命感」は、わたくし自身、たいへん勉強になりました。福祉の仕事は、時にづらいことも多くあります。しかしそれらをも大きく包んでしまう皆様の「地域への愛情」は、われわれ行政職員にも必要な素養だと強く感じました。

今後、職員の育成や福祉行政を推進するうえで、この1年間の経験が大きく役立つものと思っております。

引き続き皆様方からご指導いただきながら、区民の福祉増進のためにつくしてまいります所存でございます。

皆様、本当にお世話になりました。そしてありがとうございました。



各地区 自主研修報告

5 地区 「ヤングケアラーってなに？」

近年新聞記事やテレビの特集でヤングケアラーという言葉を目にしたことがあると思います。「ひとクラスに2人の割合でいる」って本当なのだろうか、と5地区ではこども家庭支援課の多田倫子係長にお話をさせていただきました。いわゆる「家庭内のお手伝い」の範疇を超え、長期的に行われる場合ですが、その線引きは難しくまた家庭内のデリケートな問題で本人や家族に自覚がないため表面化しにくい問題であることを学びました。

また貧困とも関連があるのではないかと千住福祉課の小木曾課長に具体的な事例を聞きたいとお願いしました。他の地区も含めていくつもの話を聞くことができました。母親がうつ傾向のため要介護の祖母のおむつの交換やデイサービスの支度をしている小学3年生の男子、その子がどう思っているかという、ただ『おばあちゃんがかわいそうだから』という例をはじめ、家庭によってまさに多様でした。ケアを要する人が多様で、それを担っているヤングケアラーも多様な

のです。子どもの心身の正常な発達を妨げることや、子どもの持つ無限の可能性と自由な時間を奪う面があることを思うと、それはネグレクトであると思えます。

ヤングケアラーと思われる事例がわかった時、地域に暮らす民生・児童委員としてどのように支援の入り口に立てるのでしょうか。普段の地域活動を通じて子どもたちや保護者に地道な声掛けをし、地域の実情を把握することの大切さを感じました。家族全体の支援の在り方を深く考えさせられる問題でした。

(5地区 北島小夜子 記)



▲ 5地区自主研修

7 地区 「8050 (ハチマルゴーマル) 問題」

4月22日、自主研修のテーマは「ひきこもり・8050問題」。講師は、くらしとしごとの相談センターの山岸所長です。

8050問題とは、ひきこもりの子を持つ家庭が高齢化し、50代の中高年のひきこもりの子を80代の高齢者の親が、面倒をみるケースが増えているという社会問題です。

一般的に「ひきこもり」は10代～20代の若者の問題として捉えられていましたが、ひきこもり問題が顕在化した1990年代から30年ほど経た現在、当時のひきこもり世代が社会に出る機会を逃したまま今もひきこもり続け50代になろうとしています。また親の体力も衰え面倒をみるのが大変になり、親子ともに世間から孤立しがちになるといわれています。

内閣府による2019年の調査では、中高年(40～64歳)のひきこもり状況は、全国で約61万人です。今

後はさらに深刻化するといわれています。

傾向として、当事者の年齢層は幅広く分布し、ひきこもり状態の原因は様々で期間も長期間に渡ります。

関係機関からは当事者の困りごとが見えにくく、当事者や家族の意識として、「悪いことは隠したい」という思いから、悪化した状態で周囲が気づくことが多いのです。また、相談は家族からが多く生活費の相談からひきこもりの子どもがいることが判明し、各支援機関と連携し定期的な見守り支援が受けられるようにした事例もあるとのこと。

別のケースではライフリンク(寄り添い支援事業)の支援を受けていた方から、セーフティネットあだちへ支援依頼があった等の事例がありました。いずれも正しい理解のもとで、継続的な支援により社会的孤立を防ぐ考え方をもとに対応したものです

最後に、ひきこもり・8050問題は、複雑な問題が介在する社会的な問題であり、重要なことは、当事者や家族が問題を抱え込まずに、センターへ相談することです。

今回の研修で得た知識や情報を、日々の活動の中で活かし、問題の発見と寄り添い、センターの活用役に役立てたいと思いました。

(7地区 鶴岡一郎 記)



▲ 7地区自主研修



「老後を考える」 江南センター（わくわくなかよし館） ～折り紙教室～ 地域を越えて



江南住区センターは、2年毎に新しい教室をスタートさせなければならない、毎回四苦八苦しているのが現状です。

そんな時障がい者福祉研究部会の親睦会があり、見事な連鶴^{れんづる}を頂いた事を思い出しました。制作されたご本人に教室の指導をと思い15地区の民生・児童委員に打診してみました。しばらくして、自分が習ってい



▲ 折り紙教室の作品

る先生を紹介しますがいかがでしょうか、と連絡をいただきました。僅かな報酬しか出せないで再度確認したところ、分かっていますとのお返事でした。教室を通じ連鶴の魅力が伝えられればと快諾して頂けました。

部会活動の縁での地区を越えて教室が始まりました。最初は基本の折り方から、そして現在は16羽へと進んでいます。生徒さんも抽選でのスタート、手先の細かい作業に脱落者がでて不思議ではないのに、皆楽しそうに一寸首^{ちよっとひね}を捻りながら各自目を細め、或いは万歳しながら完成を目指しています。手先をこまめに動かし呆け防止に、あるいは教室を通じて地域での交流にと皆勤賞めざして頑張っています。

現在は15地区の民生・児童委員と先生の夫人と3人で運営しています。また、民生・児童委員のOGの方も運営委員として参加頂いております。

(江新地区 玉屋幸夫 記)

「地域を見守る防犯カメラ ～安全・安心な足立区の実現に向けて～」

みなさまのご協力により、令和3年度の足立区内における刑法犯認知件数は、3,212件と3年連続で戦後最少を更新しました。この成果の要因の一つとして、地域を見守る防犯カメラの存在は欠かせないものです。

足立区では平成25年度から、「足立区地域における見守り活動支援事業」を推進しています。この事業では、町会・自治会やマンションの管理組合など、地域住民によって構成される団体の自主防犯活動の一助として、防犯カメラ設置費用の補助を行っています。補助率は95%で、希望する団体は最小限の負担で防犯カメラを設置することができます。

毎年多くの申請をいただいており、これまでの利用団体数は約150団体、防犯カメラの設置台数は合計800台近くに上ります。(令和3年度末時点)

また「防犯カメラ作動中」の表示によって、カメラの存在を目立たせることで犯罪を未然に防ぐ「見せる防犯」と呼ばれる取り組みも行っています。

事業を開始した8年前に比べ、区内の刑法犯認知件数が約5,000件減少していることから、防犯カメラ

の普及が犯罪抑止に効果を発揮していることがお分かりいただけるかと思えます。

安全・安心な足立区の実現のため、今後も防犯カメラの適正な設置を進めていきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

事業の詳細につきましては、危機管理課生活安全推進担当までお問い合わせください。

電話 03-3880-5838

(危機管理課 記)



▲ 防犯カメラ

足立区は活動記録提出率100%継続中です



児童福祉研究部会

児童福祉研究部会の第一回部会で、メインテーマを「児童虐待について考える」と決め、その後は児童虐待の現状、虐待と躰しつけの違い、ヤングケアラーは身近にいる、一緒に考える児童虐待、家庭事情と子ども達の育ちと色々な講師により研修を重ねてきました。

こども家庭支援課の高橋課長から「児童虐待の現状と一緒に考える・児童虐待について」を研修しました。

一回目は、こども家庭支援課から見た現状や支援について児童虐待の類型（身体的・性的・心理的・ネグレスト・複合型）をはじめ、相談窓口の照会、対応などを伺いました。

二回目は、部会員よりアンケートを取り、質問に答えて頂く形式でお話して頂きました。民生・児童委員として自分の所に相談が来た時にどう対応すれば良いか。父母や子どもからの相談、虐待を見聞きした方からの相談、関係機関への繋ぎ方。民生・児童委員へのお願いとしては子どもの気持ちへの寄り添い・子ども言動を受け止める・親の努力を労う・話しやすい雰囲気を作る・不安や悩みに共感し専門機関を案内する。環境作りの【い・ち・お・し】（いつも・近づいて・穏やかに・静かに!）。周りの人ができる事、愛着の

結び直しをする。褒める気持ちと育ちを分ける、愛情のキャッチボールを続ける機会を作る、愛の鞭ゼロ作戦など。

「虐待と躰の違い」では、子育てパレットの三浦りさ氏に、虐待が起こる親子の背景の十分な理解、苦しい時の声を出せる社会を作る。

「ヤングケアラー」では、ハートベース平島芳香氏に、ご自身の体験を踏まえて、ヤングケアラーは、昔から存在していた。発見者実績を競うのではなく地域との関係性の構築など、これからの課題が見えてくる。

「家庭の事情と子どもたちの育ち」では、足立子ども支援ネット大山光子氏に、活動から見えてくる地域の実情など。最後にまとめとして「虐待」という行為はあってはならない、ただ子育ての中で介護の日常で、言葉による暴力の中にも安全・安心を感じさせる最低限な行為だったり愛情あるものだったり様々、普段の声かけやお付き合いが大切な通報へ繋がると思います。「見守ってください」とお言葉を頂きました。

(児童福祉研究部会 部会長 金子みどり 記)

障がい者福祉研究部会

令和3年度テーマは「障がい者の家族の実態を知る」です。施設見学のできない中、民生係花牟禮係長のご尽力により部会開催は行われています。部員一同は感謝の思いです。「障がいのある方の家族の困り感について」障がい福祉センターあしすとの笹原氏に講義をして頂きました。誕生・就学・就職・家族の気持ちでは、乳幼児時期、呼びかけに無反応から始まる不安はやがて大きな不安に繋がり、医師の診断の結果障がい者と判明。家族は混乱の中、多くの選択・決断をしなければなりません。迷った時は地域の障がい福祉課援護係に相談して下さい。親切に対応して頂けます。

「わが子は可愛い」家族は一日でも長生きして見守り続けたいと願います。先に死ねない思いがあります。このようなご家族の相談を受け「大切に思うことでは親なきあとの」「自助・共助・公助」に繋げてくださいます。足立区障がい福祉センターあしすとの存在を知ることが大事です。知的・身体障がい者のご家族は相談してみましょう。地域の絆と支え合う共生社会に民生・児童委員の力が試されます。

(障がい者福祉研究部会 部会長 菊池孝子 記)



「ゆきの中につつまれたおうち」
竹の塚小 三年 深谷 侑由奈 作



地域ボランティア 防災活動について

民生・児童委員の皆さんは日頃より、地域の町会、自治会、学校関連等の活動を通じて地域の方々と交流をされていると思います。私の担当する18地区は東に中川、南は葛飾区亀有に接する足立区の端に位置しています。現在、民生・児童委員として4期目ですが自治会役員他、地域猫活動と長門小学校の避難所管理・運営会議の役員をしております。

地域猫活動とは、足立区から委嘱を受け野良猫対策として決まった時間、場所で毎日餌付けして猫ボランティアの方の協力により、猫を捕獲し避妊・去勢手術を行い子猫を誕生させない活動です。この活動は数名の女性を中心に12年が経過し、徐々に成果が上がってきています。尚、活動費用は餌代及び治療費等、すべてボランティアで行っています。また、長門南部町会は町会活動として同様に野良猫対策を実施しています。

長門小学校避難所管理・運営会議は5つの町会・自治会で組織するもので、民生・児童委員として2回目の本部長を経験しました。令和3年で23回目となる防災訓練は、昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大のため予定した6月から12

月に日程を変更して、副部長以上の役員を対象にコロナ禍での避難所開設の模擬訓練を実施しました。訓練内容は感染症対策を確実にし、河川氾濫による洪水発生と大地震発生を想定し「避難所開設後の町会等の活動」を行政との役割分担を視野にいたしたものとなりました。避難所開設にあたり、民生・児童委員という立場からだけでなく、災害弱者といわれる方に対する対策も重要課題のひとつだと思います。当避難所の民生・児童委員の方で、特に女性の方々が事前にその情報を把握して避難行動に役立つ取り組みをされていることがわかり、大変心強く思っています。今後とも地域活動に積極的に参加し、民生・児童委員として頑張る所存です。

(18地区 鶴田晴久 記)



▲ 長門小学校防災訓練



足立区立千寿青葉中学校

見上げると雲一つない青空が

いつもと同じ平和な時間

一年 一由 慧斗

放課後の教室に響く笑い声

まだこのさきも続けと願う

一年 山下 美月

青空で声援鳴りやむPRK戦

運命の合図心が走る

一年 松井志友佑

放課後の校舎にひびく笑い声

友達と歩く最後の時間

一年 田口 優衣

中学生短歌コーナー





ぶらい足立「西之宮稻荷神社」

西之宮稻荷神社は東武スカイツリーライン五反野駅近くの南側に鎮座し、美しい曲線の銅葺き屋根に気付かれる方もいらっしゃるかと思います。

この神社は天正2年（1574年）に京都伏見稻荷大社から御分霊を勧請したことに始まり、現在も近隣17神社の総社の歴史ある神社です。

地域を問わず多くの方が参拝し心の拠り所となっています。

また、宮司の唐松孝文氏は五反野西町会会員で、町会活動に深いご理解、ご協力をいただいております。ここ2年程は新型コロナウイルス感染予防のため、恒例行事が中止となっています。例年夏休み中は「ラジオ体操」「子供夏祭り」が行われ、親子共々

楽しい夏の思い出となっています。

また、町会の一大イベント「納涼盆踊り大会」は近隣町会の方々も踊りにみえて、一晩で400名程の老若男女が浴衣姿で集い二重三重と輪が広がります。今年こそ実施できることを願っています。

もう一つ、社殿に向かい右側に「五反野富士」と呼ばれる富士塚があります。富士山に行けなくてもここに参詣すると富士山に登ったのと同じ御利益が得られるようにと、富士山の溶岩塊を運んで造られたそうです。毎年7月1日の午前9時から午後1時まで、神域の富士塚に登ることができるそうです。

（五反野西町会 町会長 内藤久子 記）

子どもたちは いま 三校連携学習会(六月中・保木間小・中島根小)「いじめ問題を考える」

平成20年、芦川一男六月中学校協議会会長が発起人となり「学ばなければよい活動はできない」をスローガンに、毎年学習会を開催してきました。令和2年はコロナ禍のために中止となりましたが、今回十分な感染対策のうで14回目の開催となりました。

大山日出夫足立区教育長から「足立の教育」の基本理念と学校生活のアンケート結果の説明がありました。その後、八尋崇教育指導課長の「地域とともに育てる『やさしく・つよい』心」をテーマに講演となりました。いじめとは、「浦島太郎の亀をいじめる子どもたちです」の言葉から始まりました。その子が嫌だと感じたらいじめであり、少しのトラブルでもいじめと捉えて指導していく事が大事です。

現職時代、地域の方から子どもたちが通学路に広がっており、交差点では危なく邪魔だとの苦情がありました。細い路地が多く、人も車も多い地域でした。毎朝幾通りもの通学路を歩いてみると大人が横に広がり話しながら歩き、駅前信号の無視やタバコのポイ捨て等のルールを守っていない現実がありました。

保護者会や地域の集まりで「これで子どもの規範意識は育ちますか？」と学校から発信しました。子どもは大人の背中を見ているので、子どもの規範意識を養うためには大人も努力すべきです。

学校では縦割り班活動や、クラブ活動等高学年の子どもは集団の中での役割を自覚し「やさしさ」は育っ

ています。「つよさ」を育てるには自発的な活動をする生徒会があり、移動教室は社会のスキルを学ぶ機会です。

足立区ではPCR検査や抗原検査を行い、縮小しながらも修学旅行及び移動教室を実施しました。

しかし、この2年間全国的に中止や延期となった子どもがたくさんいます。非常に心配な事です。

やさしい心、つよい心のトータルバランスが必要です。国際社会で生き抜くには今日の学校教育だけでは無理な時期にきています。地域と学校が手をとって、子どもたちを育てていきましょう。

講演後、近隣の参加校からの様々な取り組みの紹介があり、地域の方も体験談を話されたり、地域に根付いた学習会となりました。

（竹の塚地区 金宮和代 記）



▲ 三校連携学習会の様子



PR 週間 図書館 民生・児童委員 PR コーナー

新型コロナウイルスが流行して2年。まん延防止等重点措置が3月に解除になりましたが、民生・児童委員活動のメインであるPR 週間イベントは中止になりました。

今年は、チラシ、パンフレット、ポスターを区内の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、住区センター、地域学習センター、区民事務所、町会自治会に配布し、図書館に民生・児童委員PR コーナーを設置しました。

竹の塚図書館では、介護や行政

資料に関連する本が展示され、地域学習センターでは、多くの人の目に触れるようにとセンター入口付近に関連する本が展示されました。

多くの方に民生・児童委員のことを知っていただき、困っている方の役に立てるように願っています。

期間：令和4年5月1日～31日
広報誌「さくら」は53号～58号を展示

(湖江地区 小川玲子 記)



▲ 民生・児童委員 PR コーナー

民生・児童委員としての活動 地域の方から「民生・児童委員」として認知してもらえた出来事です

町会の知り合いから「Aさんが、最近認知症が始まったのか、私の家に来てトイレを使った際に汚してしまい困っているの。昔から遊びに来てるので『もう来ないで』とは言えないので、Aさんの息子さんにそれとなく言ってくれないですか?」と相談がありました。

Aさんの息子さんに話を聞くと「おふくろはデイサービスに行きたがらない」との事。散歩中のAさんご本人と話をしましたが、今までと変わらない世間話のできたので認知症とは思えませんでした。

これらの情報を地域包括支援センターに伝えたところ、地域の担当者がAさんと息子さんに会い、話をさせていただきました。2か月くらい経った頃、Aさんから「1週間に2日程デイサービスに行ってるよ」と話してくれました。

地域包括支援センターの方に情報を伝え、対応して頂いたので、まさに「民生・児童委員は関係機関に繋げる」のが使命であるという事を実感した出来事でした。

(広報委員会 記)



「こどもたちがとりにのる」
伊興小 一年 井上 純志 作



「嵐」
東伊興小 四年 平山 大牙 作



社会福祉協議会 新旧役員挨拶



常務理事
吉田 厚子

産業経済部から社会福祉協議会事務局に異動してまいりました。福祉管理課や報道広報課などの勤務場所でも民生・児童委員の皆様には大変お世話になってまいりました。

この度の異動により、お近くで仕事ができます事、大変喜んでおります。小久保社会福祉協議会会長のもと、社会福祉協議会の役割を果たせるよう、微力ではございますが尽力してまいります。今後、地域を守り、豊かな足立区作りに貢献される民生・児童委員の皆様のご指導、ご鞭撻なくしては務まらないものと考えておりますので、何卒、よろしくお願い申し上げます。



前常務理事
大高 秀明

社会福祉協議会常務理事兼事務局長を4年間務めさせていただきました。

4年間で一番の思い出という、民生・児童委員の皆様と、相馬市に視察に行ったことです。災害時に社会福祉協議会が何をしたのか、何が求められるのか、相馬市社会福祉協議会の取り組みは、大変勉強になりました。

その後は、新型コロナウイルスの影響で民生・児童委員の皆様と交流する機会が失われ、直接お礼をお伝えできません。4年間大変お世話になり、ありがとうございました。

4月からは、生涯学習振興公社におりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

会長・副会長研修 ～ 一斉改選に向けて ～

今年の12月1日、定年等の理由により、民生・児童委員が入れ替わる一斉改選（3年ごとに実施）があります。改選後、新任委員が不安なく活動が始められるよう、退任委員から新任委員への引き継ぎが重要となります。

コロナ禍により例年の活動ができていない状況で、どのように引き継いでいくのか等の意見交換を目的とし、本研修を実施しました。

特に、『個人差がでない引き継ぎ』が必要という意見が多くでました。委員によって差がでないよう、新旧委員と一緒に訪問したり、会長立ち合いのもと引き継ぎをするなどの工夫をしている地区もありました。

また、コロナ禍で三密を避け、自身の安全を確保したうえで委員同士・町会・小中学校・担当地区・区民

との『顔つなぎ』を行った方が良いとの意見もできました。

大きな課題としてあがったのは『なりて不足』です。新任委員がいなければ引き継ぎません。各地区共通して、後任を見つけるのが厳しいことに加え、どのような人がいるのか候補者を探すことすら困難になっているのが現状です。

民生・児童委員・町会・行政など、区全体で協力し解決していくべき課題となっています。

コロナ禍で思うような活動ができませんが、改選後スムーズに活動を開始できるよう各地区の意見を参考にしながら、引き継ぎの準備を進めていきましょう。

(福祉管理課 民生係 記)

編集後記

広報紙「さくら」は50号よりカラー化となり紙面についてのアンケートでは「絵画作品が鮮明で見やすい」「紙面にメリハリがあり読みやすい」と評価をいただきました。「さくら」の印象について、すべての項目「良い」「まあ良い」の評価を7割以上の方

らいただきましたが最新のアンケートでは「小・中学生の作品」を除いて評価が下がってしまいました。アンケート結果やご意見等を参考に「さくら」が良い評価をいただけるよう努力をして参ります。

(10地区 渡邊進 記)

- 小学生掲載絵画および中学生短歌、俳句の依頼は、第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。
- 原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。
- 皆様の原稿を募集いたします（原稿は未発表のものに限ります）。 次号発行予定日 令和4年11月1日

広報委員会

委員長 益塚賢治 副委員長 齋藤祐子 書記 高橋純子 会計 小川玲子 編集長 鈴木健治 副編集長 金宮和代 レイアウト 吉田祐一 矢澤敏一 校正長 足立由美子 編集委員 杉本和子 今井幸則 鈴木博 渡邊はる江 吉澤はる江 木村克博 鈴木恒雄 校正委員 芦田利恵 富澤久成 坂井成一 桐田幸一郎 鶴岡一子 土屋幸夫 神野松枝 齋木安江